

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、診療報酬請求データ（医科レセプト、DPC）の記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	NDB 複数種情報の OMOP 統合変換に関するフィージビリティスタディー
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	医療情報学講座 教授 木村映善
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2028年3月31日
対象となる方	2019年～2025年間に当院に来院・受診された患者
利用する試料・情報等	2019年～2025年間の間からサンプリングした3ヶ月分の電子カルテ・レセプトデータ・DPCデータ
研究の概要 (目的・方法)	国が進める医療 DX 政策では、全国医療情報プラットフォーム構想の下で医療機関の医療リアルワールドデータ (RWD) を収集し、公衆衛生、医学、産業での二次利用が示されています。しかし、国際的な RWD 研究に日本が参画するような環境が整っておりません。国際的にも対応した連合解析基盤構築が急務です。国際的な RWD 解析によく使われているのが、Observational Medical Outcomes Partnership Common Data Model です。しかし、我が国では OMOP を構築するためのノウハウが確立されておりません。そこで、本研究では、公的 DB の一つであるナショナル・データベース(NDB: National DataBase)の OMOP 変換仕様を策定するために、愛媛大学の診療報酬請求から形成した NDB 形式のデータで検証を行います。この研究の成果は、我が国の医療情報で国際的な RWD 研究ができるデータベースを構築できる知見をもたらし、RWD からのエビデンス抽出を加速することに貢献することが期待されます。
個人情報の保護	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直

<p>について</p>	<p>接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は作成いたしません。院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>愛媛大学医学部 医療情報学講座 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5695</p>

【共同研究について】

この研究は、以下に記載の他の病院や研究施設と共同で行っています。

【研究組織】

<p>研究代表者</p>	<p>国立大学法人愛媛大学 教授 木村映善</p>
<p>共同研究機関</p>	<p>国立大学法人九州大学 准教授 山下貴範</p>
<p>既存試料・情報の提供のみを行う機関</p>	<p>該当なし</p>